

中日同形词 双重误用研究

A Study of the Double-Misuses of
Homographs in Chinese and Japanese

王灿娟 著



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS



中日同形词 双重误用研究

A Study of the Double-Misuses of
Homographs in Chinese and Japanese

王灿娟 著



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

图书在版编目 (CIP) 数据

中日同形词双重误用研究 / 王灿娟著. —北京: 北京大学出版社, 2018.6
(青年学者文库)

ISBN 978-7-301-29540-3

I. ① 中… II. ① 王… III. ① 汉语-同形词-辨别-对比研究-日语 IV. ① H13 ② H363

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2018) 第 099808 号

- | | |
|-------|--|
| 书 名 | 中日同形词双重误用研究 |
| | ZHONGRI TONGXINGCI SHUANGCHONG WUYONG YANJIU |
| 著作责任者 | 王灿娟 著 |
| 责任编辑 | 兰 婷 |
| 标准书号 | ISBN 978-7-301-29540-3 |
| 出版发行 | 北京大学出版社 |
| 地 址 | 北京市海淀区成府路 205 号 100871 |
| 网 址 | http://www.pup.cn 新浪微博: @北京大学出版社 |
| 电子信箱 | lanting371@163.com |
| 电 话 | 邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62759634 |
| 印 刷 者 | 北京虎彩文化传播有限公司 |
| 经 销 者 | 新华书店 |
| | 650 毫米 × 980 毫米 16 开本 11.5 印张 220 千字 |
| | 2018 年 6 月第 1 版 2018 年 6 月第 1 次印刷 |
| 定 价 | 38.00 元 |

未经许可, 不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

版权所有, 侵权必究

举报电话: 010-62752024 电子信箱: fd@pup.pku.edu.cn

图书如有印装质量问题, 请与出版部联系, 电话: 010-62756370



本书获得北京大学上山出版基金资助，特此致谢！



前言

中日同形词在日语中为数众多，且对于以汉语为母语的日语学习者来说极易产生误用。为此，中日两国学者进行了大量的误用研究。但已有研究大多是围绕语义或词性单方面的误用展开的，尚未有过关于语义、词性双重误用的研究。

在本书中，笔者试对易产生双重误用的中日同形词进行了细致的汉日对比和分类分析，且对以汉语为母语的日语学习者的双重误用状况进行了翔实的调查研究，并从日语教育学的角度提出了防止误用的对策。

此外，为改善既有研究将中日同形词的语义和词性孤立开来进行分类的缺陷，笔者试创立了语义词性相结合的“双重分类法”，以便更加全面直观地进行汉日对比。同时，为突破既有研究在进行学习者误用状况调查时普遍采用的选择题、汉译日或作文语料库等手法的局限性，笔者也试创立了“误用类型正误判断法”，以期更加全面、客观、高效地把握学习者的误用倾向。

全书共分为九章：

序章介绍了研究的背景和目的，并对书中出现的主要概念（中日同形词、双重误用、熟悉度）进行了解说。第一章分类梳理了既有研究，并指出其存在的主要问题。第二章介绍了笔者使用的研究方法（文献调查→日语母语者熟悉度调查→日语学习者误用状况调查→汉语母语者熟悉度调查+出现频率调查）。第三章通过文献调查抽取出了114个以汉语为母语的日语学习者容易产生双重误用的中日同形词，并使用“双重分类法”将抽取出的中日同形词进行了分类和统计。第四章通过对100名日语母语者进行熟悉度调查，进一步从文献调查抽取出的114个中日

同形词中抽取出了 52 个日语母语者熟悉度较高的词（即认知度、理解度和使用率均在 60% 以上的词汇），也使用“双重分类法”对其进行了分类和统计。第五章就这 52 个中日同形词对 10 所中国高校日语专业 2-4 年級的 281 名学生进行了误用状况调查，抽取出了 20 个误用率高于正确率的词，并重点对这 20 个词进行了误用分析。第六章进行了汉语母语者熟悉度调查与出现频率调查。首先，调查了 100 名汉语母语者对误用状况调查中出现的 52 个中日同形词的熟悉度，而后又调查了这 52 个词在《新编日语（修订版）》（周平、陈小芬，上海外语教育出版社，2009）中的出现频率，并分析了熟悉度、出现频率和误用率之间的关系。第七章首先从可能性、必然性、联动性三个方面分析了误用原因，而后分别从日语教师、以汉语为母语的日语学习者、日语教育研究者三个角度提出了防止误用的对策。第八章梳理总结了全书的内容，并提出了今后拟解决的课题。

由于笔者水平有限，书中难免会有错误和纰漏，恳请各位专家学者批评指正。此外，本书的出版得到了北京大学上山出版基金和北京大学外国语学院 985 学科建设经费的资助，特此鸣谢！

目 录

序 章	1
0.1 研究の背景と目的	1
0.2 主要な概念の解説	2
0.3 本著の構成	5
第一章 先行研究と本研究の位置づけ	6
1.1 先行研究に対する分類	6
1.2 先行研究の問題点	17
第二章 研究方法	26
2.1 文献調査	26
2.2 日本語母語話者に対する定着度調査	28
2.3 誤用状況調査	30
2.4 中国語母語話者に対する定着度調査並びに出現頻度調査	34
第三章 文献調査	37
3.1 調査実施の概要	37
3.2 調査の結果	38
第四章 日本語母語話者に対する定着度調査	76
4.1 調査の実施概要	76
4.2 調査の結果	82

第五章 誤用状況調査	91
5.1 調査の実施概要	91
5.2 調査の結果	99
第六章 中国語母語話者に対する定着度調査並びに出現頻度調査	131
6.1 中国語母語話者に対する定着度調査	131
6.2 出現頻度調査	137
第七章 誤用の原因及び誤用防止策	145
7.1 誤用の原因	145
7.2 誤用防止策	156
第八章 終章	163
8.1 まとめ	163
8.2 意義	171
8.3 今後の課題	174
参考文献.....	176

序 章

本章では、研究の背景と目的、主要な概念の解説ならびに本著の構成を紹介する。

0.1 研究の背景と目的

中国語を母語とする日本語学習者に見られる日中同形語の意味または品詞の誤用に関する先行研究は大別すると2種類に分けられる。

「(1) 日中同形同義・類義語の品詞誤用に関する研究、(2) 日中同形異義語の意味誤用に関する研究」である。(1)では、中国人日本語学習者の作文における小規模なコーパス（以下、小規模な「中国人日本語学習者作文コーパス」と称する）、アンケート調査或いは教育現場で採集した誤用例と正用例を取り上げた上で、誤用の原因を分析し、誤用防止の対策を立てるものが多い（例：五味・今村・石黒（2006）；庵（2008）；何（2012））。(2)では、中国人日本語学習者に見られる特定の同形異義語の誤用分析（例：陳（2009）；王（2011））と日中同形異義語辞典をはじめとする量的研究が多く見られる（例：張（1987）；上野・魯（1995）；王・王（1995）；黄・林（2004）；張（2004）；秦（2005）；王・小玉・許（2007）；郭・磯部・谷内（2011））。

これらの先行研究の日中同形語に対する分類は厳密さを欠く以外に、日中同形異義語辞典の見出し語の選定と語釈に遺漏や不備があるなどの問題も指摘し得る。また、意味と品詞の片方の誤用に偏った研究が多く、意味と品詞の二重誤用がされやすい日中同形語（例：二手、

唱歌、低落)に関する研究はほとんどなされていないようである。

従って、本研究は主に以下の三点を目的としている。

第一に、先行研究の日中同形語の分類方法を検討し、より合理的で、厳密な分類方法を導き出すことを試みる。

第二に、二重誤用されやすい日中同形語にはいかなる語があるのか、という点を明らかにし、それに基づきこれらの語の中国人日本語学習者における誤用実態、特に誤用傾向を把握する。

第三に、誤用の原因を分析し、日本語教育の視点から誤用防止の対策、特に日中同形語の教授と学習に役に立つ改善策を提示する。

0.2 主要な概念の解説

本節では、本研究で使用する主要な概念について説明する。また、細かい下位概念については対応する各章節で説明することにする。

0.2.1 日中同形語

日中同形語に関する最も代表的な研究、大河内(1992)¹によれば、日中同形語というのは単純に同じ漢字で表記される語ではない。単に表記面から考えれば、日中両言語が漢字を表記に利用する限り、「一」、「二」、「三」、「大」、「小」、「山」、「人」等、一字で音訓のいずれにも使われるものは全部日中同形語のカテゴリーに入れられる。しかし、日中同形語と捉えるかどうかは単に表記の問題ではなく、語構成の面も考えなければならない。

同氏によれば、「文化、経済、克服、普通」のような二字(ときに

1 大河内康憲(1992)「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集』下, 411頁-413頁, くろしお出版。

は三字以上)の字音語¹で、表記のみならず語構成にも共通性があり、しかも歴史的に借用関係²が存在するものが日中同形語である。また、同形語といっても字体が全く同じとは限らない。例えば、「経済」と「经济」、「緊張」と「紧张」のように、字体に差異がある場合は中国語の簡体字をもとの繁体字に戻して同形語と見なす。

しかし、同じく代表的な研究である荒川(1979)、何・馮(1986)、施・許(2014)などでは、日中同形語を音読語に限定する必要はないとしている。筆者もこの観点に賛成するが、数多くの量的研究(曾根(1988)、王(2001)など)によると、日中同形語の中では、二字同形語が圧倒的に多く、二字同形語はほぼすべて音読語である。そこで、本研究では、二字同形音読語を中心に考察することにする。

0.2.2 二重誤用

日本語に日中同形語がたくさん存在することは中国人日本語学習者にとっては、良い面もあれば悪い面もある。良い面は中国語の漢字語と意味や用法が同じ同形語に出会った際に、母語の正の転移により、すぐにそれらの語の意味と用法を身に付けられることである。それに対し、悪い面は中国語の漢字語と意味や用法が異なる同形語を使用する際に、母語の負の転移により、それらの語を誤用しやすいことである。中国人日本語学習者に見られる意味、品詞の誤用には、「①意味の誤用、②品詞の誤用、③意味と品詞における二重誤用」という3種類があり、この3種類の誤用はそれぞれ以下の場合に生じやすいと考えられる。

1 日本語における漢語とは、語種のうち比較的古い時代に中国語から借用された漢字の字音を元にした語彙体系である。漢字の音読みと対応する語彙体系であるので字音語と称することもある。固有語である「和語」、漢語以外の借用語である「外来語(洋語)」と対立する概念である(<http://www.weblio.jp/content/%E5%AD%A7%E9%9F%B3%E8%AA%9E>)。

2 幕末明治初期に、日本は古典中国語の既存語に新しい意味を賦与することにより、大量の和製漢語を創った。のちにこれらの和製漢語は中国に逆輸入され、定着した。従って、日中同形語の存在は日中語彙間の借用関係によるものであると主張する説もある。

表 1 中国人日本語学習者に見られる日中同形語の意味、品詞の誤用

誤用の種類	誤用が生じやすい場合
①意味の誤用	品詞が同じで意味の一部或いは全部が異なる。 例：愛人（中国語の意味：夫または妻。配偶者）
②品詞の誤用	意味が同じで品詞の一部或いは全部が異なる。 例：参考（中国語の品詞：名詞、他動詞）
③意味と品詞における二重誤用	意味も品詞も一部或いは全部が異なる。 例：餞別（中国語の意味：送別の宴を開く； 中国語の品詞：動詞）

本研究では、表 1 の③を対象に、日中同形語の二重誤用の実態を把握した上で、誤用が生じた原因及び誤用防止対策を検討していきたい。また、実際に「経済を発展する」、「会社を成立する」のような自他動詞の誤用は品詞レベル以下の誤用であるが、中国人日本語母語話者においては非常によく見られる誤用であるため、品詞の誤用に関する先行研究ではほとんどそれらを品詞レベルの誤用として扱っている。従って、本研究でも同様に自他動詞の誤用を品詞レベルの誤用と見なすことにする。

0.2.3 定着度

本研究で用いる「定着度」とは、「認知度・理解度・使用率」を総合的に指し示すものである。以下は、「認知度」、「理解度」、「使用率」の意味及びそれぞれに設けた段階区分を示す。

① 認知度→その日中同形語を見聞きしたことがあるかどうか。

a よく見聞きする

b あまり見聞きしたことがない

c 全く見聞きしたことがない

② 理解度→その日中同形語の意味が分かるかどうか。

a よくわかる b あまりわからない c 全くわからない

③ 使用率→その日中同形語をどのくらい頻繁に使うか。

a よく使う b あまり使わない c 全く使わない

0.3 本著の構成

本著は、全部で九章から構成されている。序章では、研究の背景と目的、主要な概念（日中同形語、二重誤用、定着度）の解説及び本著の章立てを紹介する。第一章では、先行研究を概観し、その問題点を指摘した上で、主要な問題点に対する修正を試みる。また、本研究の意義と位置づけを説明する。第二章では、本研究の研究方法（文献調査、日本語母語話者に対する定着度調査、誤用状況調査、中国語母語話者に対する定着度調査、出現頻度調査）を紹介する。第三章から第五章まででは文献調査、日本語母語話者に対する定着度調査（日本語としての日中同形語の定着度調査）及び誤用状況調査の実施概要とその結果を取りまとめる。まず、文献調査で二重誤用されやすい日中同形語にはいかなる語があるのか、という点を明らかにする。その上で、定着度調査により、日本語母語話者における認知度・理解度・使用率が共に高い日中同形語を抽出する。さらに、誤用状況調査で抽出した日中同形語の誤用状況、特に誤用傾向を把握する。第六章では、誤用の原因を突き止めるために、中国語母語話者に対する定着度調査（中国語としての日中同形語の定着度調査）と中国人日本語学習者が使用している日本語テキストにおける日中同形語の出現頻度調査を実施する。第七章では、誤用が生じた原因を分析し、主に日本語教育の視点から誤用防止対策を提示する。第八章は終章で、本研究の内容を取りまとめて全体的な結論を導き出した上で、今後の課題を提示する。

第一章 先行研究と本研究の位置づけ

本章では、日中同形語に関する先行研究を概観し、その主要な問題点に対する指摘、修正を試みた上で、本研究の意義と位置づけを説明する。

1.1 先行研究に対する分類

筆者の調査によれば、日中同形語に関する研究は、日本と中国ではほぼ同じ時期（1970年代）から始まったようである。これらの研究をその研究目的と性質によって大別すれば、以下の2種類に分けられる。

① 概説的、総合的な研究

② 誤用研究

次に、この2種類の研究の中で、日中同形語の意味または品詞に触れた研究を順次紹介していく。

1.1.1 概説的、総合的な研究

この類の研究は主に巨視的視点から日中同形語の特徴及び日中両言語間の異同を取りまとめるものである。これは日中同形語の研究の早期段階においてよく見られる研究である。代表的なものとして、趙（1983）、大河内（1992）、潘（1995）、柳（1997a, 1997b）などが挙げられる。近年の代表的なものは何（2012）、施・洪（2013）などである。それ以外に、文献調査で日中同形語を抽出した上で、分類、集計を行う研究もある。その分類方法は、以下の2種類に大別できる。

1.1.1.1 意味の異同による分類

この類の研究は主に日中の各辞書に基づき、日中同形語をその日本語の意味と中国語の意味の異同によって分類、集計するものである。代表的なものとしては、文化庁（1978）、曾根（1988）、橘（1994）、曲（1995）と王（2001）が挙げられる。以下、この5つを年代順に概観していく。

① 文化庁（1978）

1978年に文化庁によって出版された『中国語と対応する漢語』において、まず下記3種類の初級・中級の教科書（計10冊）の中から漢字音読語を2000語抽出した。

- a 早稲田大学語学教育研究所編『外国学生用日本語教科書』初級・中級（計2冊）
- b 国際基督教大学編『Modern Japanese for University Students』I・II・III（計3冊）
- c 長沼直兄編『標準日本語読本』I・II・III・IV・V（計5冊）

そして、抽出した漢字音読語を以下の4種類に分けた。

Same (S) 日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。

Overlap (O) 日中両国語における意味が一部重なっているが、両者の間にずれのあるもの。

Different (D) 日中両国語における意味が著しく異なるもの。

Nothing (N) 日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。

厳密に言えば、文化庁（1978）は日中同形語の先行研究ではなく、漢字語の先行研究である。しかし、4種類の中のS型、O型、D型は日中同形語という言葉を使っていないが、中国語と対応する漢語であるので、実質的には日中同形語である。また、集計した結果、S型の

語が最も多く、全体の 2/3 を占めていた。N 型の語はそれに次ぎ、約 1/4 を占めていた。O 型と D 型の語は数が少なく、合計しても 1/10 にも達していなかった。最も数が少ないタイプは D 型であった。

今までの日中同形語の研究はほぼ全て上記の分類基準を参考にして新しい分類を行っているので、文化庁（1978）は日中同形語の意味分類に関する研究の始祖とも言えるであろう。

② 曾根（1988）

曾根（1988）の『日中同形語に関する基礎的考察』では、『現代漢語頻率詞典』（北京語言学院語言研究所編，北京語言学院出版社，1986）の『頻率最高的前 8000 個詞詞表（使用頻度が最も高い 8000 語）』（実際の語数は 8441 語）の中から、使用頻度の高い順に漢字語 1000 語を選出し、更にその中から日中同形語を 313 語（うち二字同形語が 309 語）を抽出して以下のように分類している。

S (same)：意味が全く同じか、かなり近いもの。

D(different)：中国語の意味と日本語の意味が全く異なるもの。

SD(same & different)：中国語と日本語の意味に同じ部分もあれば、異なる部分もあるもの。

上記の SD 型は文化庁（1978）の O 型に相当するものであるので、氏の集計の内訳を下表にまとめてみた。

表 2 曾根（1988）の集計の内訳

日中同形語の種類	S 型	O 型	D 型	合計
語数	227 語	73 語	13 語	313 語
割合	73%	23%	4%	100%

③ 橘（1994）

橘（1994）の『現代中国語における中日同形語の占める割合』では、『漢語水平詞彙与漢字等級大綱』（北京語言学院語言研究所編，

北京語言学院出版社, 1992) の 8822 語 (連語も含む) から日中同形語を 4683 語抽出し、意味の異同により以下の 5 種類に分類している。

- a 日中両国語の意味が一致する型。
- b 共通する意味以外に、日本語に他の意味がある型。
- c 共通する意味以外に、中国語に他の意味がある型。
- d 共通する意味以外に、日中両国語にそれぞれ他の意味がある型。
- e 日中両国語に共通する意味がない型。

上記の a 型は文化庁 (1978) の S 型に、b 型～d 型は同研究の O 型に、e 型は同研究の D 型にそれぞれ相当するものであるので、氏の集計の内訳を下表にまとめてみた。

表 3 橘 (1994) の集計の内訳

日中同形語の種類	S 型	O 型	D 型	合計
語数	2976 語	1449 語	249 語	4683 語
割合	64%	31%	5%	100%

④ 曲 (1995)

曲 (1995) の『中日同形語的比較研究』(中日同形語の比較研究)では、『日本語教育基本語彙七種比較対照表』(国立国語研究所編, 大蔵省印刷局, 1982) から二字同形音読語を 2063 語抽出し、意味の異同により以下の 3 種類に分類している。

- a 意味がほぼ同じ
- b 意味が部分的に重なる
- c 意味が完全に異なる

上記の a 型は文化庁 (1978) の S 型に、b 型は同研究の O 型に、c 型は同研究の D 型にそれぞれ相当することから、氏の集計の内訳を下